

平成 27 年度
港湾空港局予算要求方針

【目次】

- 1 平成 27 年度港湾空港局予算要求総括表及び経営方針・・・ 1
- 2 重点的に取り組みを行う主なもの・・・・・・・・・・・・ 4

1 平成 27 年度港湾空港局予算要求総括表及び経営方針

(1) 平成 27 年度港湾空港局予算要求総括表

【一般会計】

平成 27 年度要求総額 5, 813, 398 千円
 (平成 26 年度予算額 4, 324, 159 千円)
 前年度比 +34. 4%

《主な事業》

(単位：千円)

事業名	平成 27 年度 予算要求額 (A)	平成 26 年度 予算額 (B)	増 減 (A - B)
北九州空港推進経費	606,583	472,044	134,539
・ (新) 北九州空港将来 ビジョン推進事業	(56,000)	(0)	(56,000)
・ 北九州空港航空貨物 拠点化事業	(179,324)	(168,323)	(11,001)
・ 北九州空港路線誘致 事業	(145,898)	(120,721)	(25,177)
・ 北九州空港アクセス 推進事業	(225,361)	(183,000)	(42,361)
響灘洋上風力発電拠点 化推進事業	33,775	27,000	6,775
(新) 国際 RORO 航 路誘致事業	54,730	0	54,730
クルーズ客船誘致事業	8,124	3,603	4,521
国直轄事業負担金	2,007,000	1,766,625	240,375
海岸 (高潮) 事業	127,377	65,500	61,877
奥洞海航路浚渫事業	257,225	48,000	209,225
響灘東地区処分場整備 事業	83,146	110,700	▲27,554
(新) 砂津緑地整備事業	109,200	0	109,200

【港湾整備特別会計】

平成27年度要求総額 8,046,486千円
 (平成26年度予算額 12,288,000千円)
 前年度比 ▲34.5%

《主な事業》

(単位：千円)

事業名	平成27年度 予算要求額(A)	平成26年度 予算額(B)	増減 (A-B)
新門司埋立地造成事業	197,156	139,000	58,156
響灘東埋立地整備事業	51,396	267,600	▲216,204
北九州港利用促進補助事業	43,500	45,900	▲2,400
太刀浦地区クレーン更新事業	0	539,410	▲539,410
太刀浦埠頭用地整備事業	200,000	226,400	▲26,400
公債償還に係る経費	5,847,158	9,424,813	▲3,577,655

【空港関連用地整備特別会計】

平成27年度要求総額 3,684千円
 (平成26年度予算額 1,680千円)
 前年度比 +119.3%

【臨海部産業用地貸付特別会計】

平成27年度要求総額 490,900千円
 (平成26年度予算額 481,700千円)
 前年度比 +1.9%

【市民太陽光発電所特別会計】

平成27年度要求総額 73,815千円
 (平成26年度予算額 64,300千円)
 前年度比 +14.8%

(2) 平成 27 年度港湾空港局経営方針

港湾空港局は、「北九州港」と「北九州空港」という二つの「みなと」を最大限に活用し、「元気発進！北九州」プランを着実に実行していきます。

平成 27 年度は、以下の 3 つの柱を基にして、各事業に取り組みます。

① 北九州港 ～ 競争力のある港づくりの推進

港湾間競争を優位に進めるためには、充実した物流サービスを提供するなど北九州港の利便性を維持・向上させる必要があります。

港湾インフラの効果的かつ効率的な維持管理を行い、これまで取り組んできた「集貨」と産業集積（自動車物流や風力発電関連産業の拠点化等）による「創貨」を促進します。

② 北九州空港 ～ 北九州空港将来ビジョンの推進

「福岡空港と北九州空港の役割分担と相互補完」の考え方を基本とし、北九州空港の 24 時間空港のポテンシャルと、後背圏のものづくりの集積を活かし、物流・交流・産業に関する 3 つの将来像を実現することにより、空港及び周辺地域が相互に発展する好循環を目指します。

③ 港湾整備特別会計 ～ 抜本的改革の推進

港湾施設と一体となった埋立分譲地の造成やターミナルの整備等は、「港湾整備特別会計」を設置し、造成等に要した市債を分譲地売却や施設使用の収入で償還してきました。

しかし、埋立分譲地の売却不振や地価下落等により、特別会計の独立採算を維持することが困難な状態となっています。

このままの状況が続けば、近い将来、一般会計からの繰入などが必要となることが想定されることから、第三セクター等改革推進債の活用も視野に入れた「抜本的改革」を推進していきます。

2 重点的に取り組みを行う主なもの

(1) 北九州港 ～ 競争力のある港づくりの推進

充実した物流サービスを提供するなど北九州港の利便性を維持・向上させ、港湾間競争を優位に進めるため、将来の北九州港が果たすべき役割をイメージした4つの将来像の実現に向けて、事業に取り組みます。

(将来像)

- ・ ものづくり産業を支える物流基盤としての港
- ・ 災害に強く、いつも安全で、市民生活や企業活動を支える港
- ・ 環境首都（環境モデル都市）にふさわしい港
- ・ 多くの人々が憩い、賑わう港

(将来像1) ものづくり産業を支える物流基盤としての港

近年、高い経済成長を続けるアジア諸国は、生産拠点の拡大や巨大市場としての存在感を増しており、その成長を取り込むことが、本市のみならず、日本経済にとって重要となっています。

そこで、北九州港は、アジアに向き合う最前線の港湾として、「船舶の大型化への対応」、「アジアとのシームレス物流の実現」、「アジア向け産業の集積促進に向けた魅力ある立地環境の形成」等に取り組みます。

IV-1・継続 響灘洋上風力発電拠点化推進事業 33,775 千円

洋上風力発電産業の拠点化を進めるため、風力発電関連産業の集積に向けた活動組織を構成するための調査や既存岸壁・護岸の強度等に関する調査検討を行うほか、国際風力発電展で「グリーンエネルギーポートひびき」事業をPRします。

IV-1・新規 響灘エネルギー産業拠点化推進事業 2,675 千円

エネルギー関係の様々な分野に係わる地元企業が中心となって拠点形成に向けた活動できるよう「(仮称) 響灘エネルギー産業拠点化推進期成会」を設立します。

V-1・継続 港湾施設整備事業(補助) 442,044 千円

岸壁や道路など、老朽化した港湾施設について、適切な改良を加え、有効活用を図るために整備を行います。また、市民が気軽に港や海辺を楽しめる緑地の整備を新門司や響灘東地区で行います。

V-1・継続 奥洞海航路浚渫事業 257,225 千円

奥洞海地区において、航路の航行環境の改善や船舶の大型化に対応するため、航路の浚渫を行い、国際競争力強化を図ります。

V-1・継続 響灘及び新門司埋立地整備等事業 285,952 千円

新門司地区及び響灘地区において、企業立地に必要な造成やインフラ整備を行います。

V-2・継続 国直轄事業負担金 2,007,000 千円

(うち3月補正予算前倒し分 135,108 千円)

国が行う新門司地区の航路・泊地、田野浦及び西海岸地区の岸壁の整備について、地元負担を行います。

V-2・新規 国際RORO航路誘致事業 54,730 千円

自動車部品輸入などのシームレス物流や完成自動車輸出のために必要な国際RORO航路を誘致し、モータープールの開設・拡大など臨海部における自動車関連産業の物流拠点の形成を図ります。

V-2・継続 北九州港利用促進補助事業 43,500 千円

航路誘致、集貨・創貨の促進に係る助成を行い、北九州港の利用促進を図ります。

V-2・継続 太刀浦埠頭用地整備事業 200,000 千円

太刀浦コンテナターミナルのヤード舗装の轍や破損箇所について、舗装補修を行い、荷役作業の安全性の確保と効率の向上を図ります。

V-3・継続 新門司フェリー岸壁可動橋油圧機器更新事業 32,000 千円

新門司に就航する長距離フェリー岸壁の可動橋油圧機器は、経年による劣化が進んでいるため、計画的に更新を進めます。

V-3・新規 港湾施設補修事業(拡充分) 177,519 千円

高度成長期(1960~1970年代)に整備された岸壁・護岸等は、施設の劣化が進行しています。これらの施設のうち、早急に安全対策が必要となっているものについて、維持・補修を行います。

V-3・継続 公共上屋長期維持保全工事業 266,947 千円

平成23年度から着手した事業で、公共上屋の長寿命化のため、維持補修を計画的・効率的に行います。

**(将来像2) 災害に強く、いつも安全で、
市民生活や企業活動を支える港**

大規模災害やテロ等から地域を守り、安全・安心で質の高い市民生活の構築や安定した企業活動の実現等に貢献する港づくりを目指します。

II-1・継続 海岸（高潮）事業 127,377 千円

災害に強い都市づくりの一環として、臨海部における高潮等の災害から市民の生命や財産を守るために、新門司及び白野江地区で護岸整備を行います。

II-1・継続 北九州港港湾計画・港湾BCP策定事業 2,669 千円

大規模災害に備えた北九州港の事業継続計画（港湾BCP）の更新と、対象範囲を関門航路や下関港を含む関門地域に広げた港湾BCPの検討などを行います。

II-1・新規 津波対策検討調査 9,627 千円

県が策定する津波浸水想定に基づき、津波浸水被害が想定される地区を対象とした護岸や防潮堤等のハード面の津波対策の検討を行います。

V-3・継続 港湾施設保安対策事業 221,789 千円

海上安全条約（SOLAS条約）に基づき、船舶を利用した国際テロの発生を防止するため、外国貿易に利用される港湾施設の保安対策を実施します。

(将来像3) 環境首都（環境モデル都市）にふさわしい港

深刻化する地球環境問題に積極的に取り組む先進都市港湾として、陸域、海域からなる広大な港湾空間を積極的に活用して、資源循環型社会の形成、低炭素社会の実現、自然環境の保全・再生などを行い、本市が掲げる世界の環境首都にふさわしい港づくりを目指します。

VI-2・継続 LED 照明等導入事業 14,400 千円

北九州グリーンフロンティアプランの一環として、新門司地区の LED 照明灯の導入を推進します。

VI-3・継続 響灘東地区処分場整備事業 83,146 千円

浚渫土砂や廃棄物を最終的に処理する処分場の整備のため、護岸の詳細設計、土質調査を行うほか、環境影響に関する調査を行います。

(将来像 4) 多くの人が憩い、賑わう港

平成 23 年 5 月に策定した「新・海辺のマスタープラン」では、「利用できる海辺を増やす」、「海辺の親しまれる度合いを高める」という 2 つの目標を掲げ、市民が気軽に海辺を親しめる事業に取り組みます。

Ⅲ-1・拡充 魅力ある海辺づくりの推進 10,512 千円
(うち拡充分 7,141 千円)

市民太陽光発電特会の収益金を活用し、みなとや海辺において様々な活動を行っている市民団体の活動を支援するほか、一般公募による海峡クルージングを実施します。

Ⅲ-1・新規 砂津緑地整備事業 109,200 千円

来訪者が海を眺望できる親水空間を創出し、にぎわいのある海辺づくりを提供することを目的に、新球技場周辺の緑地を整備します。

Ⅲ-1・新規 新門司海浜緑地安全対策事業 60,000 千円

地蔵面地区において、利用者が安全に水際線へ訪れることが可能となるよう、安全施設の整備を行います。

Ⅳ-4・継続 北九州港市民 PR 事業 14,626 千円

広く市民に海・港に親んでもらい、港の賑わいを創出するため、船舶公開などを開催するほか、北九州港内で開催される花火大会を支援します。

IV-4・拡充 クルーズ客船誘致事業

8,124 千円

(うち拡充分 4,521 千円)

国内外のコンベンションへの出展やキーパーソンの招へい、代理店や船社への直接営業を通し、クルーズ客船の寄港を促進します。また、客船寄港時にはおもてなしイベント等を展開します。

(2) 北九州空港 ～ 北九州空港将来ビジョンの推進

空港の将来ビジョンで示した3つの将来像の実現に向け、具体的な取り組みを策定し、段階的に実施していきます。

(将来像1) 九州・西中国の物流拠点空港

航空貨物便の安定就航のため、集貨促進に一層取り組むとともに、増便、新規路線誘致に向けた取り組みを強化します。

北九州空港推進経費**V-2・新規** 北九州空港将来ビジョン推進事業（航空貨物関連） 23,000 千円

東九州自動車道開通を見据え大分などの沿線地域及び空港周辺から北九州空港向けに集貨を行う航空貨物ライナーを実施するとともに、より大型の貨物機を積極的に誘致することで、航空貨物の拠点化を進めます。

北九州空港推進経費**V-2・拡充** 北九州空港航空貨物拠点化事業 179,324 千円

(うち拡充分 11,001 千円)

航空貨物拠点化に向けて、滑走路延伸を見据えた実績づくりのため、福岡県、苅田町と共同で、航空貨物の定期便の維持や誘致、集貨促進を図ります。

V-2・拡充 北九州空港貨物拠点化基盤施設整備負担金 94,094 千円

(うち拡充分 89,980 千円)

国際貨物定期便の運航機材の大型化等に対応するため、エプロン（駐機場）整備、照明工事に関する地元負担を行います。

（将来像2）北部九州の活発な交流を支える空港

国際線国内線の新規路線誘致、東京・名古屋路線の集客促進に積極的に取り組むとともに、空港アクセスの利便性を確保し空港の利用促進を図ります。

北九州空港推進経費

V-2・新規 北九州空港将来ビジョン推進事業（旅客関連） 33,000 千円

北九州空港の強みである 24 時間利用を推進していくため、深夜・早朝時間帯の定期便・チャーター便を誘致します。また、今後の旅客・貨物の需要増大に対応するため、空港の施設等の拡張・再整備案を検討します。

北九州空港推進経費

V-2・継続 北九州空港路線誘致事業 145,898 千円
(うち拡充分 25,177 千円)

北九州空港に、新規の国際・国内定期便を誘致するために、チャーター便助成や新規路線の定着を図るための事業を実施します。

V-2・継続 北九州空港利用促進・集客対策事業 29,833 千円

北九州空港に就航する路線の定着を図り、更なる路線ネットワークの充実を目指して、PR・集客活動を実施します。

北九州空港推進経費

V-2・拡充 北九州空港アクセス推進事業 225,361 千円
(うち拡充分 42,361 千円)

北九州空港へのアクセスの利便性向上のため、エアポートバスや乗合タクシーの運行助成を行います。平成 27 年度からは、エアポートバスの主幹線である小倉線について、一部時間帯での定時運行化等強化策を実施します。

（将来像3）航空機関連産業の拠点空港

北九州空港の活用を検討しているMRJの飛行試験施設の実現に向けて取り組むとともに、今後の航空機関連産業の集積に向けた取り組みを進めていきます。